訪問看護リハビリ
はるかぜ豊田

風歳時記

2020年
文月号

豊田市土橋町4-75 BULS12-D号
TEL:0565-41-8777 FAX:0565-41-8778
www.yukikaze55.co.jp/harukaze/kango/
令和2年7月15日発行　通巻第9号

第２回日本在宅医療連合学会大会　WEB大会に参加して

今回は名古屋国際会議場開催という事、又豊田市の事例を紹介するシンポジウムや、地元で活躍されている先生方も御登壇されるということで、以前より参加を楽しみにしていました。

コロナ感染拡大で中止かと思っていたら、なんと完全WEB開催となり、6/27・28両日オンラインにて開催されました。数ヶ月という短時間でここまで漕ぎ着けた大会事務局・運営事務局の皆様を始め、素晴らしいコンテンツを発表頂いた演者やシンポジストの皆様のご尽力に、心より感謝と敬意を表したいと思います。

「他職種連携と協働」
「早めの介入アクション」
「多様性への繊細な対応」

等、各セッションを貫いて統一して感じた大切なテーマを再認識。同じ想いで課題に取り組んでいらっしゃる全国各地のお仲間の皆さんの日頃の努力や想いに触れ、大いに刺激と勇気を頂きました。各地から御自宅やクリニック・事業所内からzoomで参加するという形、いかにも在宅医療の世界にマッチした初めての大規模な学術集会となり、世の中で言われるDX（デジタルトランスフォーメーション）と医療介護の今後の融合に関しても、一つの在り方も実感しました。

●大いなるメリット

1. 「演者の声が聞こえない」「スライドが見えない」等の不満はほぼ完全に払拭される
2. 遠距離開催地のハンデを乗り越え、地方からも容易に参加可能でコストと時間が節約できる
3. この種の大会や研修は週末開催となる事がが多いが、自宅から自分の関心のあるセッションだけを選び、ワークライフバランスに富んでいる

（次ページ続く）

（前ページより）

●感じた改善点

1. 演者又は参加者のの通信環境や回線の状態により、時折音声が不安定になったり途切れる
2. 質疑応答がテキストベースで、ダイナミックで密度の濃く双方向高いQ&Aが維持しにくい
3. 会場内での演者・参加者間の挨拶や名刺交換・雑談や懇親会がないので、人間関係作りの点では物足りない

●参加した主なセッション

「看取りを念頭に置いた在宅医療地域緩和ケア」
「在宅療養における食を守る　オーラルフレイルの視点から」
「終末期リハビリテーション」
「実践 呼吸リハビリテーション 呼吸器疾患から神経筋疾患まで呼吸苦なく在宅で生き抜くに」
「医療依存度の高い患者の在宅ケア」
「患者の生前から始まる悲嘆のケア 在宅ホスピスケアの看護師の立場より」
「家族志向のケア 患者とその家族との付き合いの迷ったら」
「褥瘡・創傷管理で在宅医療が変わる 大切な知識・技術から実践まで」
「在宅医療介護連携支援センターから始まる多職種による意思決定支援ACPと街づくり」

コロナで限定的に解禁されたオンライン診療報酬制度と共に、AR（拡張現実）との組み合わせや、バイタルデータの遠隔収集、見守りシステム等、未来の診療のデジタル化は一体どのような姿になるのでしょうか。来年11月開催予定の第3回大会では、東京ビッグサイトの会場とWEB開催のダブル開催となるそうです。オンライン参加してくれた看護師、セラピストと共に改めて、今回の大会で学んだ事や自分たちで決めた新たな取り組みを今後も深めていきたいと思います。

「看護師さんの訪問バッグの中見せてください！」

コロナ感染対策番外編：フェイスシールド

看護師ではないけれど・・キムタクに成り切った代表

今回のコロナ対策の一環で、感染対策の個人用防護具（PPE）の不足が全国の関係者の間で問題になりました。そんな中、マスクやフェイスシールドのストックがはるかぜでも課題となりました。そんなところ、ステーション代表の懇意の会社がコロナ騒動のかなり初期から、海外の取引先ルートを通じてサージカルマスクやフェイスシールド等の確保に動いており、当ステーションでは３月末からこれまでの間、何とか在庫に困ることはありませんでした。

現在の所、切迫した環境での着用を強いられるようなことはありませんが、カッコいいメガネ型のフェイスシールドを使用しています。熱発されている利用者さんの口腔ケアの時等に使用中。

軽くてスタイリッシュにも関わらず、しっかり飛沫から守ってくれる優れもの。木村拓哉さんがインスタグラムで凛々しい着用姿を投稿して話題となったメーカーのものです。深刻な状況下での着用が無ければ・・と願いながら今日も密かに出番を待っています。

「いつもお世話になっています」

プチ職員紹介　看護師　井上

仕事をしていて嬉しい事：訪問後に利用者様から「ありがとう」と言われるとやりがいを感じ、嬉しく思います。
余暇の過ごし方：こども園の役員で、手作り作品係の為、時間があればミシンを使ってランチョンマット等作っています。
豊田市内おすすめの店：前回に引き続き、焼肉屋さんですが、白頭山の冷奴がオススメ。ランチのカルビ丼は安くておししいです。

数字で知るはるかぜ

月間訪問看護件数

574件

４年かけて少しずつですはありますが、地域の医療介護職の皆様へ浸透が図る事ができていたなら職員一同の喜びです。

何よりも訪問件数は地域への貢献のバロメータ。今後も当地域の後期高齢者人口が急激に増加する地域環境も踏まえて、受け入れ大勢の強化と教育研修体制の充実を図ります。

「温かい在宅看取りの中でみつけた介護の力」

看護師　田中

先日、心に残る最期の時を過ごされた利用者様に関わることができたのでお伝えします。このような在宅での看取りの関わりができたらよいと思いました。今後の看護師としての関わり方についても深く考えさせられるものとなりました。

２年前より間質性肺炎を発症し、在宅酸素療法をしながら自宅で過ごされており、入退院繰り返されていたが、訪問診療に切り替え、最期の時を自宅で過ごす選択をされた70代のご利用者様。呼吸停止の連絡を受け訪問すると長男様はじめご家族が全員同室されており、ご主人様が利用者様の手を握って、うずくまり泣いている。

長男様「今日は何かを感じていたのか、最期が近いことを分かっている様で、何回も『ありがとう』と言ってきて。よく頑張ったと思う。じいちゃんも。」

そんな言葉が聞かれる。長男様以外は泣いており、ご主人様の姿が悲しみを深めている。医師より、先にエンゼルケアをしてもよいとの許可を得ていたが、ご主人様の寄り添う姿をみて、そのままお二人の時間を持っていただく。到着された医師も、ご主人様の姿をみて、すぐには死亡確認されず、ご主人様の肩に手を添え、今までの事を振り返りながら、初めて会った日の事、得意でない料理にチャレンジされた事や、奥様との日々を綴った日記の事などをゆっくりとお話しされる。

最新空き状況毎週更新中→　http://yukikaze55.co.jp/news

その後死亡確認されご家族様と一緒に清拭、手足浴、洗髪、更衣行う中ご主人様が席を外された。

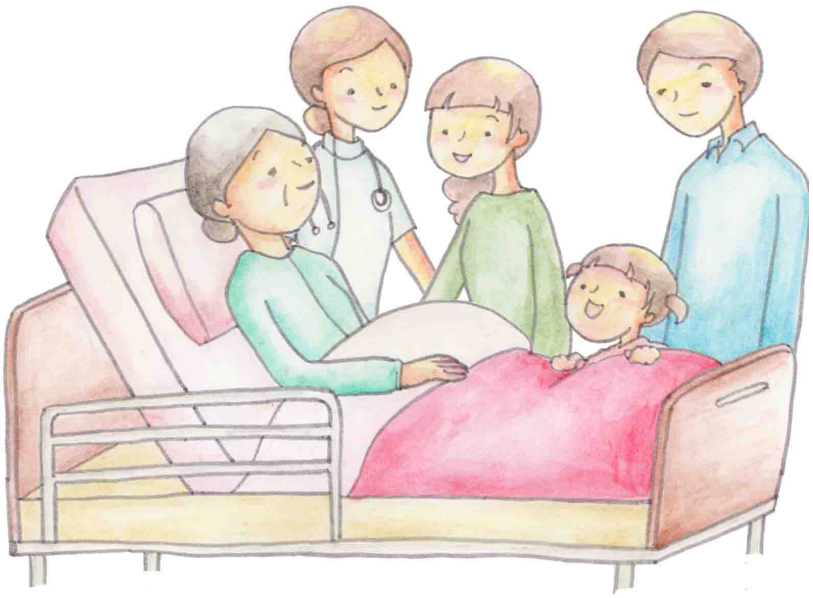
医師「ご主人様、やりきったね。」

長男様「本当ですね。やりきったですね。自分、おやじの事、あまり好きじゃなかったんです。でも、行きつけの床屋がおやじと一緒の所で・・。この前、床屋でおやじの話を聞いて、ああやって人を介して話を聞くと、凄いのかなって思えるようになって、おやじはよくやってくれているんだと思った。」

最期に身に付ける服は、ご主人様がプレゼントされた服を選ばれ、ご主人様、次女様と一緒に着衣、エンゼルメイクを施す。

ご主人様「結婚式の時の顔みたいに綺麗だ。」

と話された。最後はみんなで笑い和んだ雰囲気となり、にぎやかなエンゼルケアとなった。最後まで、医師も同席してくださった。



「死＝悲しいだけではない」と、この利用者様を通して感じた。

これは今まで経験した事のない最期の時間だったように思い、寄り添う事の大切さを改めて深く感じた。

また、介護は身体的・精神的負担も多いが、そんな介護を通じて、父親の偉大さに気付いたり、介護には家族の見方を変えるそんな力も備わっていると知ることができ、感慨深い気持ちになった。

当初はキーパーソンであるご主人様主体の支援だったが、状態の変化に伴い、長男様夫婦を巻き込んだ支援に関わりを変えた事、本人様含めご家族様の思いを傾聴しながら、携わるスタッフもひとつの方向に向かって支援できた事がこの看取りに繋がった。

告知

出前・出張講座承ります

地域包括支援センターや介護施設、老人会など介護予防教室の講師として出張いたします。現在鋭意準備中で、来月のニュースレターにて講座のパッケージプランをご案内いたします。今年度は〝地域の「食」を支える〟をテーマに、言語聴覚士の佐藤を中心に、右の様なアイディアで現在プランを練っています。

講座プランの一例

- 「クイズと実践で学ぶ『のどの老化と誤嚥性肺炎』」
- 「最近ムセる…」正しい対処法と間違った対処法
- 「食べられるうちから習慣化」嚥下しやすい正しい姿勢

ニュースレターバックナンバー
http://yukikaze55.co.jp/category/blog-houmon/newsletter